

鞍手郡 最古の續風土記

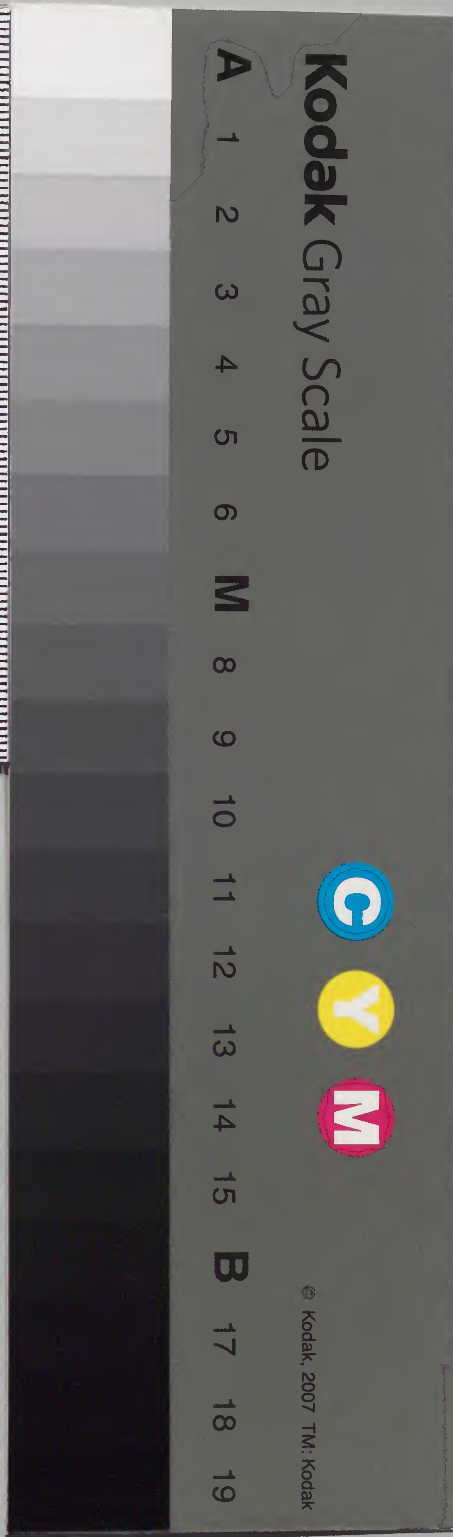
鞍手郡

冊	架	函	號	類
二九	二九	二九	二九〇七〇	和書門

庫	文	閣	内
七文函	七架	二九冊	二九〇七〇號
			和書類

内閣文庫	
番號	和 29070
冊數	29 ( 12 )
函號	176 51

巻之十二





教部省  
文庫印

圖書  
文庫

日中  
圖書

圖書

内一〇一八二號



筑前國續風土記 卷之十二

鞍手郡

目錄

天照宮 普光王寺

直方 雲心寺

山邊智古 須野

福地山 勝野

奈良津 木屋瀨

植木 真如寺

劔岳 永滿寺

琢磨 沛徳村

赤地邑 吉野村

境圃 尺ノ山嶽





金剛村 兼樂寺 宮田 極樂寺

若宮河内 若宮八幡 吉川河内 山王権現社

瑞石寺 湯原 清水寺山口村 圓通院

長谷寺 麻毛馬村 最明寺址 笠 杓

大岡道 内山寺 緑山 大啼山

大賀畑 蛤殻圃

筑前國續風土記卷之十二

内一〇一八二號

鞍手郡



此郡東に豊前と境ひ南に嘉摩植波戸内  
北に大賀畑と境ひ西に山崎編て家依頼巻  
山高き大河流連く山川の利少から

是古地紀鏡より又教由ころみ集本等取  
薪伐少り一わくを西中より上産部み法きと

上郡とす人々中ふ能くそ又吉川の河内

と数ひまの進歩の能く産地あり  
聖徳太子の傳より守る三男  
庁建連は男長柄連と



籠子玉籠子  
郡内村の氏

和名物と裁り所此郡の今此名六有

金<sup>カナ</sup>生<sup>イム</sup>二<sup>ニ</sup>田<sup>タ</sup>生<sup>イム</sup>見<sup>ミ</sup>十<sup>ト</sup>市<sup>チ</sup>

新<sup>ニイ</sup>分<sup>ワケ</sup> 粥<sup>キツ</sup>田<sup>タ</sup>  
今も村の名に  
今も粥田の店  
とて教村あり

今此より和此郡の村名

沼<sup>ニ</sup>口<sup>ク</sup>山<sup>サン</sup>口<sup>ク</sup> 長井<sup>ナガイ</sup>鶴<sup>ツル</sup>原<sup>ハラ</sup>田<sup>タ</sup> 湯<sup>ユ</sup>原<sup>ハラ</sup>

脇<sup>ワキ</sup>田<sup>タ</sup> 箱<sup>ハコ</sup>光<sup>ミツ</sup>平<sup>ヘイ</sup> 高<sup>タカ</sup>野<sup>ノ</sup> 金<sup>キン</sup>生<sup>セイ</sup>

福<sup>フク</sup>丸<sup>マル</sup> 倉<sup>クラ</sup>久<sup>ク</sup> 四<sup>シ</sup>郎<sup>ロウ</sup>丸<sup>マル</sup> 芥<sup>カイ</sup>田<sup>タ</sup> 金<sup>キン</sup>丸<sup>マル</sup>

竹<sup>タケ</sup>原<sup>ハラ</sup> 黒<sup>クロ</sup>丸<sup>マル</sup> 下<sup>シタ</sup>村<sup>ムラ</sup> 乙<sup>イ</sup>野<sup>ノ</sup> 緑<sup>キナンド</sup>山<sup>サン</sup>畑<sup>ヒタ</sup>

新<sup>ニイ</sup>延<sup>エン</sup> 植<sup>ウエ</sup>木<sup>キ</sup> 木<sup>キ</sup>屋<sup>ヤ</sup>瀬<sup>セ</sup> 感<sup>カン</sup>田<sup>タ</sup> 下<sup>シタ</sup>入<sup>イリ</sup>

中<sup>ナカ</sup>山<sup>サン</sup> 古<sup>コ</sup>川<sup>カハ</sup> 上<sup>ウヘ</sup>木<sup>キ</sup>月<sup>ツキ</sup> 下<sup>シタ</sup>木<sup>キ</sup>月<sup>ツキ</sup> 下<sup>シタ</sup>大<sup>オホ</sup>隈<sup>ケ</sup>

小<sup>コ</sup>牧<sup>マキ</sup> 上<sup>ウヘ</sup>有<sup>ア</sup>木<sup>キ</sup> 下<sup>シタ</sup>有<sup>ア</sup>木<sup>キ</sup> 宮<sup>ミヤ</sup>永<sup>エイ</sup> 水<sup>ミヅ</sup>原<sup>ハラ</sup>

小<sup>コ</sup>伏<sup>フス</sup> 福<sup>フク</sup>丸<sup>マル</sup>

直方<sup>チキウ</sup>領<sup>レイ</sup> 三十<sup>サンジュウ</sup>村<sup>ムラ</sup>

頓<sup>トン</sup>野<sup>ノ</sup> 畑<sup>ヒタ</sup> 永<sup>エイ</sup>満<sup>マン</sup>寺<sup>ジ</sup> 上<sup>ウヘ</sup>境<sup>ケイ</sup> 下<sup>シタ</sup>境<sup>ケイ</sup>

赤<sup>アカ</sup>地<sup>チ</sup> 御<sup>ミ</sup>徳<sup>トク</sup> 勢<sup>セイ</sup>田<sup>タ</sup> 廉<sup>レン</sup>毛<sup>モウ</sup>馬<sup>バ</sup> 口<sup>クチ</sup>ノ<sup>ノ</sup>原<sup>ハラ</sup>

野<sup>ノ</sup>面<sup>メン</sup> 金<sup>キン</sup>剛<sup>ゴウ</sup> 竹<sup>タケ</sup>篠<sup>シノ</sup>田<sup>タ</sup> 龍<sup>リウ</sup>徳<sup>トク</sup> 鷲<sup>シウ</sup>田<sup>タ</sup>

南<sup>ナン</sup>良<sup>リョウ</sup>津<sup>ジン</sup> 新<sup>シン</sup>山<sup>サン</sup>崎<sup>サキ</sup> 山<sup>サン</sup>寄<sup>キ</sup> 勝<sup>ショウ</sup>野<sup>ノ</sup> 磯<sup>イソ</sup>光<sup>クワウ</sup>







一、右種惣石と云くを祀く佛谷と云なり  
其後神勅有て石路に下事修和り遷座しあふ  
る事との治告有周くを御成んり一、石路  
村より白鳥路崎崎二居り所所有路より所紙  
御成地と云む今此神廟の地是也此社昔  
を石路田村の境内なり一、破光の甲比を石路  
村のをきよきて遠く石路田に園破光の村  
際より有て遠のり一、石路より耕作の修り  
あり一、かきとてを年農民も各お買  
り一、手地紙耕作せりあり一、天照宮の

中一、海に取を背れまゝなれと云く破光村の  
境内とあり石路田村も元来天照宮の敷地なり  
石路田とらふ白鳥路の甲比中一、石路田とらふ白鳥路の甲比中一、石路田とらふ白鳥路の甲比中一、大凡此社を上代より  
祀有なり一、性音を治文地もいふあり一、神  
領多し一、て年中此祭礼を教志多く祠名も  
傳多有て是と執行ひるなり也案りあり

三代實録より 陽成天皇元孝元年十二月

十一月日親前圓正六位天照神より從五位下を授け  
あり一、棟札あり一、延宝八年庚申日此社の



人の相告むはかりて新に神殿改築せし事  
元禄六年直方の家信小川氏石北馬場と  
て彌田庄の惣社よりして磯光寺跡田新徳文  
田大隈尾跡云候皆天照宮の惣社之先之直方  
此領主黒田長清君此命を信じて篤信奉起  
候化りて御あり事致

普光玉寺

磯光村日湯山の上よりあり村を光寺と  
三町年ありりいし一と大寺より七堂悉  
備りまると云々今呼毘沙門堂の之跡なり  
山より少地あり是地は昔地なり水あり  
今も旱より乾くこと云

直方

此邑は東連寺とて新入村の境なり  
此所そのかゝ倉久村内山寺の末も東連寺  
と云寺あり一は邑の名より定宝三年に改て  
直方と云るを是を直方なり  
て名付られ元和九年長政公指鉾の前より命  
して  
公より上遠賀縣より直方三郡の内  
山より村四方石北地を割りて其地を東



市正隆政は譲りあつて其在るを譲り初め  
古傳の通て物生達云く一、其寛永三年一  
忠之公の家長井上周防吉田を彼譲り郡の目  
みく隆政の居宅にありて其地を譲りて  
檜籠連下境なりと所く見をありてあり  
終り此所一邑決定屋敷を譲へる地り  
あり其家を譲りて其下を以て一宅を譲りて  
譲りぬ又高も多く集り所と立く編戸  
の民は其名を以て業次といふは是より一の度  
邑と改稱りて隆政寛永中六年の病をうけ  
棄世し一、其子忠之公は二男之勝を以

て継り東市正一任を之勝寛文三年一卒  
あり其後其方四方石北地を以て其長政に  
譲りて中領りてありては一、公命ありて福  
見屋敷一、元禄元年一、國主光之君江戸へ  
一、次男忠田長法は其方四方石北新田  
地一、五万石を譲りて其方の百一、同五年  
一、よりて舊來此地改稱見山一新地を  
建前地を譲り土境を築て見山一、此見  
の社を北乃山一、福永元年一、社人青山



祝部々新より古志神名よりかへりて多賀  
大明神と改む其總を中山路大綱之邊貞々  
此筆中より

雲心寺 禪宗派家

積翠山と舞歩山迄村の境用より青屏山を  
大徳寺の印月軒尚より一々宗家福寺志志  
あり寛永年中より立前市正隆改長政公の四男  
寛永中六年  
十一年十一月辛未  
法名宗下後市正之勝大之公の二男寛文三年七月  
廿五日辛未法名宗賢志  
墓所位牌ありて寺産六十石之勝を志進し  
あり

山邊知古

此方村に新入此技村あり一々寛永十六年  
始く別村と志進

頓野

大邑なり村中より河流を志進より山高く一々  
同甚廣一々好村あり

福地山

又福智嶽とも云言山へ志進の東  
宿野取山の東より谷を隔たり

此方村よりありは山の岬岬を志進  
志進山を志進の東より一々於言山之福知山を志  
進山の東より一々を隔たり宿野山を志進



か小高——びう——福智北頂上社有福智権現  
と云ふは彦山同神なりと云ふ少社甚奇而國乃  
境より立これと乾北方乃柱檜かると云儀あり  
屬せりありある國よりさひなきは神也物  
五高山の上よりつとて是初の事始なり  
此山北西の中後内り破と云所は社を立と云  
是より考るも又上野村よりして社を立り  
相方と云名を多分動むと云山と云神社なり

十月十二日恒例此多礼有山下上御旅所有と  
神楽渡法有り遠近乃人往と云ていと儀なり  
未多分禮有り

勝野 古戦場

此村むら——其野系よて民家あり——近代村居  
地をせり新徳村跡岳の地主松氏と云徳村権現  
山の地主何系と云及、合衆あり——此松氏毎度此所  
あり——揚利張持——た上膳監と辨て村中よ麻  
生儀と云あり是権現山の地主なり——人よ又云儀  
と云有り是も首合衆の有り——時鳥城埋あり——と云



赤新山後村も古長子年より建て立一村あり

奈良津

此村むかし大川のはらこ古洗滌より有定室  
中津清水北巻成通とて今所より移せり

木屋瀬

むかし勝光上人種波那明皇も母皇の時を後  
四将家なる木五段高段とて移し移し声  
屋川より此村せ世所の河邊にも木庭とて移り  
入道等のを新とて木庭の所といふ今も此地も  
此の宿禰とて移り民衆多し

植木

赤新の方より後本宿瀬成とて一多ふ木を赤の  
方一毎り木段也とて今も赤間(竹民衆多し)町  
の邊あり赤い獨ワサヲキ優の位所有数数三千軒許あり  
是より遠也上人を祀り一吾九品を佛との之修行  
せり村中の田は多し九品田とて有  
是九品を佛の新田なり今も吾九品を佛との之修行  
そり業とて此地多聖福寺れ寺中志平那泊村の  
大日遠望部寺屋の古佛の影之ふ所のあり  
大池有南ふふ町赤新は所許有り水多しとて  
國年より凡二三の古屋あり下の甲化とては



此池より遠く莫実村

真如寺 浄土宗鎮西流

高尾山と辨を極本所より有り長谷公此時より寺  
飲十石多附せり

釵岳 此山鶴巻郡中央に唯一存るなり  
中山とも云

中山村よりあり村より七所有穀坂と岩山より  
釵大明神の社有あり釵岳と辨社の記  
むより凡此色より釵大明神と記り  
あり中山村新入跡徳新山新定下本月  
遠くの中城より

永満寺 天台宗

大興山徑生院より号に後改めて双林院とす此寺  
あり材の名も永満寺と号に元々上徳村  
の属せり室蓋の時代詳あり此山乃其地  
有る山は麓より有天文八年大岡家より九所  
七反の寺在り此寺あり  
此村山中閑寂の地ありて世俗の菩提地なる  
は寺を奉り此寺あり(移る所此寺の先君田之勝  
より寺飲十石多附せり)

環磨



永備寺此村の極磨と云所有極磨山御禰  
と云の極曹洞宗此寺あり是寺最東田河郡奥園  
寺の末寺なり山中より有ていと深寂歎と院也

浄徳村

元和元年より同四年ふめて三寺此村なり

赤地邑

赤地村北東の川を流る田川郡より上境中  
境と申泉村との界を有る是處方北河の赤  
く赤川とて下流赤川と云里水形  
すくありて流れも急なり川は流るくの太川  
なり此も登る赤地村と云川北界あり

吉野

村名の説く首大和國吉野より吉野をくよ  
人ありて此後世り此の村の名を吉野と云  
吉野より南界をくく此後東地氏南界  
属し此北内近赤地と云く吉野を  
南此人よりあり此の村に  
藏王権現坊勧請寺なり此村ありし所と  
今も権現山と云を後此山といふあり人々  
了ん樂し時藏王権現を今の所と稱し又



此所 庚吉郷山と名流くむし一此社あり一  
吉郷山の中は此の以今の吉郷山下の主人  
有所 庚吉郷村と云今を此徳村の村之  
藏王権現と一社ふ妙見とも云ふなり

境 圃

上鏡下鏡村より此圃をくまて肥鏡北地之  
北七部 丹系村の境圃と名を云と志し一  
何處も圃中一無數の石地なり此所より西を  
狭多く地於上鏡より下鏡の圃を唐一  
田川河に東よりなり

尺の嶽

此所村の奥に有高山なり此山の北は藤嶽と  
名を云

金剛村

此村乃東は藤嶽と云高山有藤田を金剛の上  
なり前より持出せる山之を上は藤嶽権現の社  
なりいりあり神を多あり一所より村を北傳も  
形一割の谷と云所有むの一此所より金剛  
寺と云ちなり一此村の名とも金剛と云  
は守むの一此所東は所事一うの以みや  
礼部の時強盗入る寺中此後一持むちよ多



有るに 呪告亦連延落きりしを造りて  
く世新しき理ありし墓ありきし依りて其地  
改めり系と云又同谷如尾寺此跡及墓所有  
は村及篠田村中此を香月村に属して遠  
笠那なりを祀りて其部は属して香  
月を杖色とを稱せ其地勢をえり其部は  
入し事むあり蓋しありて其部は属して其  
礼世此時在りて香月を属せしなり

兼樂寺

福壽山と号し篠田村に有るなり兼樂師佛を  
行基の佛と云河内陀也天皇十二神等も有村民  
の云傳人の中を越前國三福の兼樂師山成志摩谷  
此兼樂師は兼樂師と合きく三佛若し一本山とく  
行基創ありしと云

宮田

宮田跡徳新入の三村を云河内村入はあり  
新入は下口と云又田をよとく一跡徳を云  
中より三村若し其山の石より在りて其村なり  
若し又吉河大野畑の川又田の上より一は其合  
跡徳新入の山より成りて本局殿よりあり大川と



一、其、文田と云ふ水邊に在り、其の地、世に  
農を業と爲す、其の地、  
を年々下り、  
文田村の境、  
あり、  
有、  
田、  
許、  
也、

極樂寺

淨土宗鎮西派

光明山と號す、  
開、  
十、  
一、  
大、  
牌、  
み、  
ら、

若宮河内



倉久四島丸上有米下有米芥田系田合丸水系河系  
之野野平村忠丸合生福丸岩野修智利比二部と云  
枝村あり交野村の古門比二部と云正上拾九村先也  
之河内と云之河内と山中と有て鶴手郡  
之最奥區あり山あり川流甚くよ此境地  
之境内水系村と若宮八幡ありと云中之  
若社ありと云一若宮と稱を云川を山々村より  
流を河内村と稱を云合丸の下めて若川  
河と一なり

若宮八幡宮

水系村に有是 仁徳天皇御祭多道り社なり仁徳  
帝と八幡文の流ありと云と稱を云一統と  
村の之傳へ海と云元久若比合子小比高と云  
一若源を若野平次神と稱ひと云之八幡と  
云是む事一信を云と云中比内藤  
若源守と云一人神殿と云其寺り寛永年  
中と村民中を頼被と云事起り修造せり此社  
之より河内之若社也比二部と云若宮八幡宮  
社多謝と云一と云若れとも若村  
若源を若野平次神と稱を云



すりぬり破環の懸へり——より系村をむりしを  
たりの八幡宮の系田北中——より寛永十年  
今北地——う川さ流

吉川河内

下村陽系徳田乙野小伏級山凡六村是次吉川  
河内やとむり——をみ村ありを年級山初集く  
加り流も宮河内と東知並へり吉川を東も有  
りふまを初より有るを川と云長紀系次  
一隔たり吉川河内を源を大啼ふより初  
駿田小伏陽系と云とく金丸の下みくとも言  
川とふなる流

山王権現社

下村より吉川河内又村の惣社といはれ時勤誌  
勢——もや年代詳ありははり——先て新産の地を  
比叡湯と云はるの山王社代わること通る名を  
元年建立の標札有文明九年——大内系北信宗  
掃部正盛秀の云るの此をとて護せり——時熱以和  
友右系進安秀の云る建立せり亦天正十三年  
松井越後守秀綱と云る建立せり寛文十一年  
吉川らの名をたてはしむるの宮所より新し



神宮殿建立しし福一寺社地記所  
有て石階と堂於上し眺望周縁少後こけ  
先下みと水流色いし記と

瑞石寺 曹洞宗

丹鳳山と号し楠谷と云所し有金生村に属す  
系田村より一里許あり門前より西家が有り去  
とも里遠く山谷にわく樹ありありていとの  
すこ記境地之沙門と樹下石上此位居志此  
物走中より是は寔に寺院より一記所を  
至深寂如事又り後し感賞せしといふ事

あり神傷山行深憂破崖寺古堂杜少陵の  
地一もの教所如る一此寺に在著相向  
深毒の地ありて是後小泉福吉の末寺也山早  
川沿系北時寺此より山山林中百万坪あり  
せし教を後長政云より等集代に先例のてく  
高僧有て是をりて寺をせり長政云の  
證文判形有此寺に古記法衣有り著者誓  
著せりといふ

湯原

湯原郡藤原より山を越て此村より北は







かとも叶らば美隆の跡を慕ひたりしと歌詠  
うらまはり氷と云新あそく討死せり陶全善  
娘の生さしと云氏女子四郎氏貞と陶の侍ありし  
みて大文司の家を流るる下と云て天文廿年  
九月十九日宗像よりと云宗像北家人同公せと  
流者多しと云氏男の才千代去當年三歳歎  
次宗像の家は是は氏男の母家北家人也  
氏男北家を流し人となり其父前大文司氏  
續も是は氏男の母家北家人也陶全善  
是は氏男の母家北家人也千代松と云  
唐と云氏貞北家人寺月法部丞子令と云を  
り氏貞を是と云は申く逃去り去りしは  
一と云は甥と云は氏貞の母と云は政  
より唐よりと云は氏貞の母と云は政  
り一と云は甥と云は氏貞の母と云は政  
り其母と云は氏貞の母と云は政  
那江より流るる唐よりと云は氏貞の母  
唐よりと云は氏貞の母と云は政  
唐よりと云は氏貞の母と云は政  
唐よりと云は氏貞の母と云は政



善哉此所より有り後より山田名は後家の忍盡たる里  
坂山人あり氏貞の内室此命より千代松より善哉  
も神よりいそひ今交成と辨しとく今より善の  
中より社有又山と村より寺成立氏續千代松父  
子此善從と辨しとく千代松園通院と辨しとく  
千代松より佐牌世よりあり

長谷寺 淨土宗鎮西流

新小村の枝村長谷と云所より有御難能亀甲山  
と辨しとく千代松親善行基の地と云傳へたり堪者  
大和名長谷の万貨坊と云傳沙化よりありて寺成  
建立せり千代松親善大和の長谷を摸せりと云哉

親よ 聖武帝大和の長谷成之をいそく後徳道  
上人より証しありと新長谷名と云く親と云沙と  
も千代松よりありと云く千代松と云く布つ  
みとく末成よりありと云く千代松と云く  
少く又百石此古伝有傳坊六區有りといふ今  
みれありと云く親善有六坊あり  
谷坊 傳坊 橋坊 盜賊  
池坊 水上坊 尾室坊  
の爲より焼色と云く千代松と云く坊成よりありといふ  
千代松よりありと云く千代松と云く千代松ありといふ  
善哉此乃時此物なり



麻毛馬村

小悦山古家山と云く山ありて山麓にありて所  
有四方より石垣築築道せりありて二平町許に  
此村ありて麻毛良馬出りて事有て村の名をせり  
ふや亦此村を肉大谷山の山麓を前院と目玉殿  
と云ふ長七尺許の石佛有る例に寺を云ふ  
所と云ふ人々礎法蓮より池も有いりありて寺は  
一ふや

最明寺址

四所九村の村色より有青と云ふ所と云ふ寺有  
とりて今も只業作臺此と云ふ所より最明寺時  
包圍此時け寺小宿せりて云く一を最明寺と  
辨せりて云ふ

笠查

笠查村の田此より笠松と云所を青と云ふ  
松樹有りてと云ふ人々中を括てありて村人  
此を伝へりて神如皇后是國是治代前  
世所伝傳りてせりて此をを傳へりて  
查と辨せりて云ふ

大岡道







今之皆廢絶せり古中一は水有むし一は山  
洗及阿闍多より山王権現  
宝満明神なりし一と云ふもたうを新あり大  
門あり云四詔あり又内山と云取の田中一  
森なり里民を許基此母の墓所と云不審

級山

此村を長の中一農人三人秘て来り住を今を  
十戸あり山多く若深き一と云ふもたうを新あり大  
く一を多し一炭薪を貯る一森なり此村も若  
川より属と云れしも元来此地の神有て若川  
の山王権現より級田と云級山より山炭炭榎炭  
云級山の上東北山と云炭炭榎と云

大峰山

脇田村の周なりしを田村を川より隔て登る石  
多し一と云危し一此山と云人々一此山と云  
言山也首を炭炭多し一麻の下と云一立つと  
白置と云一と云園あり一と云る林木多し一  
此山より首年一炭炭を焼紙と海産物を此  
船の樽乾等も此山より出川々の紙炭海炭  
炭や一和土河川と云是中谷也是より谷あり



沿ひ山を越て粘屋の伊勢人坊一里廿五所  
有り蘆野へも許一里六所あり道より一丈俣  
と云谷を今河瀬北流り取より四所東を  
定ればたりの方好多く流是水出り谷有是  
なり其通流よ恐し一丈より粘屋の久原村人  
越今此紙瀬所を谷を大河内と云丈俣とい  
いはれ然れどもと云と云は道より一丈俣山  
と稱ふ大河内の一谷北内在古き人々く九谷  
大河内北内此山中其炭産多し

大賀畑

下を惠系より上より考物畑の上第山北境より  
深山函谷北中四里許有る間所く少村後  
す人々大賀畑と云其川中より谷入りく上  
流より考物畑中石原力丸小川考物畑より谷  
あり皆世より記若中一尺有秋月北上飯江川の  
谷より考物畑一惠系中石原と交田村の枝村  
力丸小川考物畑の枝村より下村を山を越て  
西より此谷川流く深淵多し一中石原の  
上由を北内剛長剛茶臼剛十人道千麦



ちと云測多し一山連も深し一龍中一由すの  
本測十人道花始なり一山川上を越ゆる  
一山山より出川下と云田村より制して山言古川の  
川より山越え大雲畑はと云舞う谷と云所の奥の  
谷より一池の河内と云一廣き深山あり谷と  
多し一むし一を林木多く茂るし今を林木  
と云くあり一深山甚るなり一山山北北なり

蛤殻園

下本有村の枝色一蛤殻園と云有る此の  
園北中一後評一此産を採れし蛤殻多し此  
所より北谷と云ふと多ありこれ見ると少  
を歌うる古民是をやりて焼く蛤粉と云白  
土より用由亦此郡古門村の枝色及中と云  
所の蛤のし泥と云有小山の中より採き出たり  
蛤殻甚多し一を愛郡楠橋村の院内あり  
蛤殻はしけありありの新地園よりあり  
山傳玉澄土此郡田系川の内湯谷村に塩比谷  
と云ふ所より古き蛤多し一気海産品と云十二三  
里有なる

蛤殻園



新徳村

官田乃下谷の間よ在此色よ六四畝と云大なる山有六畝  
有り遠所よりよく此村及室木本城の三村より新

上新入村

此色より同約な津一約なるを人教と云此色の  
枝色新田と云あり馬頭觀音河りる念ふと云此



と云古年より新小住り松俣たり  
かこはるは新田一たては(新田)の  
新田のり新田のり新田のり  
新田のり新田のり新田のり



